

循環と保育：持続可能な暮らしを子どもと共に作る

2024年6月23日(日) 13:00-16:00 (開場 12:30)

東京大学福武ラーニングシアター及びオンライン同時開催

参加費無料 事前申込制 (先着 対面100名 オンライン500名)

コロナ禍を経て、人口減少化においてあらためて、私たちは次世代において、持続可能な社会をどのように実現していくのか、そしてそのために、園における保育や教育の中で、この問題にどのように向き合うのかが問われています。そこでこのシンポジウムでは、2名の実践者と3名の研究者からお話を伺い、乳幼児が自然環境や素材（自然物や食材、廃材等）と関わる中で、乳幼児とともに循環性やつながりのある持続可能な生活を経験し学んでいくために、保育者がどのように考え、何を大切に実践しているのか、また私たちはこれからどのように思い、課題と向き合うことができるのか、考えていきたいと思えます。

開会挨拶 秋田喜代美 (学習院大学教授・東京大学大学院名誉教授)

第一部 プロジェクト調査結果報告

- ・宮田まり子(白梅学園大学准教授)
- ・辻谷真知子(お茶の水女子大学助教)

第二部 園の実践報告とダイアログ

コーディネーター 野澤祥子(東京大学大学院准教授)

- ・青山憲枝(和田こども園保育教諭:福井県福井市)
- ・海老澄代(とみなみこども園園長:大阪府堺市)
- ・石田佳織(園庭研究所代表)
- ・宮本雄太(福井大学大学院准教授)

第三部 循環と保育をめぐる思想と対話

- ・朝岡幸彦(白梅学園大学特任教授・東京農工大学名誉教授)
- ・浅井幸子(東京大学大学院教授・発達保育実践政策学センター副センター長)
- ・秋田喜代美 (学習院大学教授・東京大学大学院名誉教授)



2024年3月発行
『循環と保育』

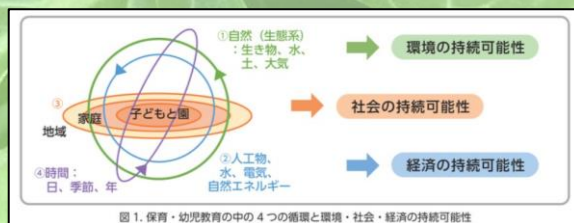


図1. 保育・幼児教育の中の4つの循環と環境・社会・経済の持続可能性

『循環と保育』p2

お申し込みはCEDEPのWebサイトから

cedep.p.u-tokyo.ac.jp/eventlisting/symposium/20240623symposium/



主催 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター園庭調査研究グループ

本シンポジウムは文部科学省科学研究費基盤B(一般)「乳幼児の自然への探索・探究過程に保育者とメディアが及ぼす影響」(課題番号24K00377)の助成を受けています。